

「Adjuvant FOLFOX およびXELOX による脾臓容積の変化」に関する研究のお知らせ

研究帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：平成 28 年 11 月 17 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日

〔研究課題〕

Adjuvant FOLFOX および XELOX による脾臓容積の変化

〔研究目的〕

術後補助化学療法による脾腫（類洞障害）の頻度、危険因子を明らかにすることです。

〔研究意義〕

術後補助化学療法の適応を考える上で、あるいは患者様の意思決定において有用な情報となります。

〔対象・研究方法〕

『Stage III 結腸癌治療切除例に対する術後補助化学療法としての mFOLFOX6 療法(L-OHP + 1-LV+5-FU) /XELOX 療法(L-OHP + Capecitabine)の臨床第Ⅱ相試験』に参加された患者様を対象として、術後補助化学療法開始前（術前）、術後補助化学療法終了時、術後補助化学療法終了後 1 年の 3 時点における血液生化学的検査および腹部 CT 検査の結果より脾腫（類洞障害）の頻度、危険因子を検索します。

〔研究機関名〕

代表機関：日本医科大学付属病院 消化器外科

共同研究機関： 埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科

帝京大学ちば総合医療センター外科

東京女子医科大学東医療センター外科

松田病院外科

あさのクリニック

東邦大学医療センター佐倉病院外科

獨協医科大学病院第一外科

獨協医科大学越谷病院外科

上尾中央総合病院

金沢赤十字病院外科

福島県立医科大学 器官制御外科学講座

福島県立医科大学会津医療センター小腸・大腸・肛門科

順天堂大学医学部附属静岡病院外科

高知大学医学部附属病院がん治療センター

東松山医師会病院外科

友愛記念病院外科

岩国医療センター外科

〔個人情報の取り扱い〕

個人情報は秘匿化し厳重に管理し、研究終了後 10 年間帝京大学臨床研究センター(TARC)に保管します。

〔その他〕

研究参加による謝礼等はありません。本研究に関する外部団体、企業よりの資金提供はありません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者： 外科 教授 幸田圭史

研究分担者： 外科 講師 小杉千弘、外科 助教 平野敦史

住所： 千葉県市原市姉崎 3426-3

TEL： 0436-62-1211 （代表） 〔内線 2750〕